

会 議 録

会議名	令和4年度第2回東浦町社会教育委員会	
開催日時	令和5年3月16日（木） 午前10時から午前11時40分まで	
開催場所	東浦町文化センター 視聴覚室	
出席者	委員	石原弘幸氏、平井伸幸氏、松下玲子氏、二宮邦子氏、水野智美氏、高崎義幸氏、中村六雄氏、松山智美氏
	事務局	教育長、教育部長、生涯学習課長、図書館長、スポーツ課長、生涯学習課課長補佐兼係長、文化財係長、生涯学習課主事、生涯学習指導員
欠席者	外山淳子氏	
議事	1 令和4年度・5年度の取組について 2 その他	
傍聴者の数	なし	
審議内容		
<p>◆あいさつ 委員長 教育長</p> <p>以降は委員長が議事を取り回す。</p> <p>◇委員長 次第に従い、議事を進める。議事1「令和4年度・5年度の取組」について事務局から説明を生涯学習課、スポーツ課の順に求める。</p> <p>◆事務局 ○生涯学習課の取組について、配付資料に基づき説明。 〈文化センターのポイント〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、感染拡大防止に注意して、託児つき・子ども向け・親子向け講座を開催することができた。今年度の特色として、得意なことを教えたいと、教えたい方が自ら企画・運営するマイプロデュース講座への希望が盛況であった。また、ミュージックフェスティバルやうの花音楽祭を3年ぶりに実施することができた。 ・第4回親子ふれあいイベントを生路・藤江地区で開催した。東浦高校の生徒会やサッカー部が企画・運営にボランティアスタッフとして参加してくれた。ゲームスポットを担当してもらい、ゲーム内容の検討から当日の運営までを担当してもらった。参加者からは、ゲームが楽しかった。高校生スタッフからは、普段できない交流ができた、子どもたちとのふれあいが楽しかったという意見が多くあった。事業目的の一つであった青少年育成にもつなげることができたと考えている。 		

- ・令和5年度は、文化センターや地区コミュニティセンターの改修工事や改修工事に向けた設計を予定している。中央図書館では、トイレ壁面の補修工事とエレベーター更新工事の設計を計画している。
- ・文化センター、地区コミュニティセンター等の維持管理費のうち、燃料費の高騰により光熱費の計上額が大きく増えている。

〈文化財・資料館のポイント〉

- ・講座・教室については、コロナ禍でもあり、定員を減らして実施している。しかし、回数・内容はコロナ前と同様に実施することができた。
- ・令和5年度の文化財保護事業費の中に、「工事請負費 緒川村郷蔵解体工事費等」が計上されている。これは、郷蔵の建物自体の痛みが激しく、また移築先も見つけられなかったこと、町道の拡幅計画もあることによるための解体工事である。
- ・春の企画展の「水野氏の娘 於大」は、大河ドラマに合わせて内容を計画している。

〈中央図書館のポイント〉

- ・「総合百科事典ポプラディア研修会 2022」は、学校図書館サポーターを中心に、課題解決のための百科事典の授業活用法を伝えるために実施した。
- ・「本の修理講座」は、参加者の密を防ぐために、講師の手元をプロジェクターで投影して参加者に見ていただく方法をとって実施した。
- ・「吉田初三郎が覗いた知多半島」という講演会を実施した。うのはな館に収蔵されている「服部徳次郎コレクション」を研究されている方をお招きして、その特徴などについてお話しいただいた。
- ・バリアフリー映画上映会は、住友商事から提供いただいた副音声の解説がついたDVDを上映することができた。

〈生涯学習課が取り組む令和5年度の新たな取組についての追加説明〉

- ・「部活動の地域移行」は、協議会を立ち上げて移行の流れについて検討している。現時点では、今年8月で土曜日・日曜日の部活動を中止して、9月から「(仮称) 町営クラブ」を立ち上げることを検討している。学校での部活動は、当面の間は継続していくが、将来的には平日の部活動もなくなる見込みである。なお、9月からのすべての部活動の種目を立ち上げることは難しいので、指導者の確保や活動場所などの条件がそろった種目から順次開始していく予定である。生涯学習課では文化部を担当し、運動部はスポーツ課が担当する。生涯学習課としては、9月から吹奏楽部の活動がスタートできるように考えている。なお、参加する生徒については、土・日曜日の町営クラブへの参加は必須ということにはしない。部活動以外の選択肢のひとつと考えていただければいい。
- ・現在、東浦町では、すべての学校にコミュニティ・スクールを設置している。コミュニティ・スクールは学校側の取組であり、地域側での取組として「地域学校協働活動」が考えられる。その活動を令和5年度から生涯学習課で進めていくことになった。令和5年度は、ひとまず、各地区のコミュニティ・スクールや各地区の状況把握をしたり、他市町の先行事例の情報収集をしたりして、町でどのように取り組んでいくかの筋道を立てていきたい。
- ・どちらの事業も地域の力が必要になってくる。社会教育委員の皆様にも様々な面でご協力いただきたい。

◇委員長

事務局（生涯学習課）の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員長

令和5年度の取組の中で、地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）報酬が計上されている。地域コーディネーターは、各学校のコミュニティ・スクールと地域で活動されているグループのコーディネートをしていく人で、現在各学校で担当している教頭の代わりに新たに創設する人のことか。

◆事務局

その通りである。地域コーディネーターには、その学校のある地域の方になっていただくよう計画している。現在教頭が担っている学校と地域をつなぐ役割を担っていただくと考えている。現在は、まだ一人もいないので、この予算が執行されるかは不透明であるが、地域コーディネーターを発掘していきたいと考えている。

◇委員長

地域コーディネーターは、現在いないということであるが、地域コーディネーターは学校の活動や地域の活動をよく知っている人になってもらわないといけないと考える。せつかく、これからコミュニティ・スクールが設置され活動を進めていくので、早く地域コーディネーターを発掘して、各学校においていただきたい。また、各地区の地域コーディネーターを取りまとめるような方を文化センターに配置する予定はあるのか。

◆事務局

令和5年度から、生涯学習課に「統括コーディネーター」という役を置くことにしている。

◇委員長

この件については、令和7年度に愛知県社会教育委員連絡協議会東尾張支部研究会で発表する研究課題との関連があると思い、質問させていただいた。

学校部活動の地域スポーツに移行する点についてお願いします。「町営クラブ」を立ち上げるということであったが、現在あるスポーツクラブとの兼ね合いはどうなっていくのか、指導者の手当の問題はどうなるのかなどこれから問題になっていくと思われる。これらの問題を、学校部活動地域移行推進協議会の中で検討されていくのか。

◆事務局

その通りです。

◇委員長

「二十歳のつどい」は、令和2年度・3年度は東浦中学校の飛翔館でやって、令和4年度はあいち健康プラザで実施したのか。それで、3中学校合同でできたのか。

◆事務局

あいち健康プラザが工事だったため、令和2年度・3年度は東浦中学校の飛翔館で2部に分かれて実施した。今年度は工事が終了したので、あいち健康プラザで以前のように3中学校が集まって実施した。来年度も同様の予定である。

◇委員長

以前、あいち健康プラザで行っていた成人式には、社会教育委員も参加して祝うことができた。式場が飛翔館になって、参加することがなくなった。今後はどうなっていくか教えてほしい。

◆事務局

会場はあいち健康プラザに戻っているが、コロナが完全に終息したわけではなく、来賓も大幅に縮小して進めている。また、実行委員会で運営されており、その協議の中で、来賓は恩師を多く呼びたいという考えが現在の流れになっている。

◇委員長

分かりました。

次に、郷土資料館についてお願いします。郷土資料館は、春と秋の企画展は、毎年豪華に行っている。それに対して、ミニ企画展は予算がつかないのか。

◆事務局

ミニ企画展も、自分たちで作製する解説パネルや写真パネルの消耗品などの予算計上をして対応している。

◇委員長

せっかく企画されるのであれば、もう少しお金をかけて見ごたえのあるものにしてほしいのではと思っているので、今後検討してもらえるとありがたい。

◇委員長

生涯学習課へのさらなる意見がないことを確認し、続いてスポーツ課の説明を求める。

◆事務局

○スポーツ課の取組について、配付資料に基づき説明。

〈ポイント〉

- ・スポーツ課の前期教室については、子ども向けの教室はすべて希望者多数で抽選を行った。大人向けの教室については70%以上の参加があった。
- ・後期のイベントである「東浦マラソン」は、コロナの影響で3年ぶりの開催となった。3年前は、2,200人ほどの参加者であったが、今回は1,000人強とおよそ半数であった。この傾向は近隣市町でも同様の傾向であった。
- ・令和5年度には、ふれあいセンター管理運営事業として、藤江コミュニティセンターの空調機改修工事の設計とトイレ等改修工事を予定している。
- ・社会体育一般事業費の中の「スポーツ少年団補助金」の交付団体が、昨年度より1団体増えた。昨年に続いての増加である。部活動の地域移行への受け皿になってもらえると思われるので、スポーツ少年団への支援をこれからも続けていきたい。
- ・生涯スポーツ振興事業費の学校部活動地域移行推進協議会費は、この協議会の事務局を担当しているので、委員の謝金として計上している。指導者への謝金は、町営クラブ設立の準備ができた活動から予算化していきたい。
- ・体育館・はなのき会館管理費のうち、「ネーミングライツ料」は、町体育館などのネーミングライツ・パートナーに決定した「知多メディアネットワーク株式会社」から5年間支払われる。

◇委員長

事務局の説明を受けて、委員の意見を募る。

◇委員

町の体育館には、Wi-Fi がついているか。北部ふれあいセンターでは、毎年避難訓練をやっているが、その際防災ネットの方から講話でインターネットを使用したいという要望があったが使用できなかった。また、体育室を利用している人が「東うらうら体操」を見ることができなかったということがあった。Wi-Fi がついていないのは北部ふれあいセンターだけなのか聞きたい。

◆事務局

体育館で、Wi-Fi が利用できるのは、ロビーとはなのき会館だけである。アリーナ、小体育室は使えない。また、北部ふれあいセンターと西部ふれあいセンターは利用できない。町の行事などで使うときは、事前に申し込むことにより DX 推進課から貸し出し Wi-Fi を借りてくることができる。

◇委員

昨年度の事業で、子ども向けの教室が大変人気で抽選であったということであったが、倍率はどのくらいだったか。

◆事務局

希望が多い教室で、1.5 倍であった。

◇委員

6つの教室全部で定員を超えていたのか。

◆事務局

そうです。

◇委員

町民の方からのニーズが大きいと考えられるので、ニーズを満たすための改善や工夫、新しい取組を考えているか。

◆事務局

参加者枠を広げていきたい。過去の例だと、以前「子ども体育年中」は週1日だったが、希望者が多かったので週2日にした経緯がある。また、教室に参加した人たちで任意のグループを立ち上げて体操教室を開いているところもあるので、こういう活動を支援していきたい。

◇委員

益々充実していただければありがたい。

◇委員

藤江コミュニティセンターをいろいろ改修していただけるのでありがたい。

地域コーディネーターの報酬額は決まっているが、その積算はどうなっているのか。また、スポーツ少年団補助金の積算もどうなっているのか。さらに、こういう活動が各地域で機能していくのか教えてほしい。

◆事務局

地域コーディネーターの報酬の積算は、1時間あたり1,000円×40時間×9地区で、36万円になっている。

◆事務局

スポーツ少年団補助金については、1団体15,000円で団を運営するための補助金である。14団体あるので21万円になる。スポーツ少年団は、小学生がスポーツを始めるきっかけになる場所である。ただ、現在はスポーツ少年団以外の習いごとなどに参加されている子もいるので団員が増えていかない問題が生じている団体もある。

◇委員

生涯学習課とスポーツ課では補助金の積算根拠が違ふと思われる。このような取組は、教員の時間外労働をなくすことが主な要因と思うが、スポーツ少年団の指導者はボランティアになるのか。

◆事務局

部活動の地域移行の受け皿となるスポーツ団体については、これからどのくらい受け入れてもらえるかを確認していくところである。部活動の地域移行をして町営クラブを作り、子どもたちのスポーツ・文化の活動機会を作る。そこに指導者に入っていくという構想である。その指導者には、現在スポーツ課に登録している方や東浦町内で指導していただける方をお願いする。地域コーディネーターは、学校のコミュニティ・スクールと地域学校協働活動をつなげていただける方という位置付けで探していくということで、その方の活動に対して1時間1,000円と考えている。この金額は、近隣市町で導入しているところを参考にしている。部活動の地域移行とコミュニティ・スクール関係とは、教育委員会としてはひとまず別々に進めていこうと考えている。

◇委員

教師が行っていることを外部委託することは難しいのではないかと思う。

◇委員長

地域スポーツに移行するということで、町営クラブがこれからできる。そこで、「既存のクラブと町営クラブの指導者の手当をどうすればいいか。町営クラブに参加している生徒が、郡大会や全国大会に行くときはどういう形がとられるのか。土、日曜日の大会に、町営クラブの指導者が引率していけるのか」など様々な問題が考えられるので、部活動地域移行推進協議会で検討してほしい。

◇委員

今年度は、生涯学習課もスポーツ課も講座や教室などへの参加者が多かったということであるが、コロナ禍で行われた講座や教室の数はコロナ前よりも減っているのか。

◆事務局

生涯学習課の講座や教室に関しては、数は変わらない。内容によっては、定員に達せず中止になった教室もあるが、基本的には一つでも多く開催できるようにしている。

◆事務局

スポーツ課では、コロナ禍前と数は減っていない。

◇委員

需要が多かった講座などは、追加の講座を検討してもらって、町民の方ができるだけいろいろなものに参加できるようにしていただきたい。

◇委員長

議事1へのさらなる意見がないことを確認し、審議終了を宣告。

議事2「その他」について確認する。ここでは、委員の皆様から、東浦町の社会教育等について、日頃考えていることや聞きたいことをだしていきたいと考えている。

◇委員

令和7年度に発表する研究内容「高齢者の居場所づくり」に関わることがありがたい。また、子育てまっただ中のお母さん方の居場所づくりも必要であると聞いている。その中で、働きながら子育てをしているお母さん方への支援活動が東浦町は活発だとも聞いているので、そのへんを他の地域にも発信していきたい。

◇委員

「愛知県青少年育成県民会議の青少年団体等表彰」を、平成28年度・29年度にボーイスカウトやガールスカウトが受けている。しかし、それ以後はないようであるが、東浦町の現状はどうか。

◆事務局

ガールスカウトは解散しているが、ボーイスカウトは2団体あり、町として補助をしている。ただ、表彰制度を把握しきれていない状況である。

◆事務局

ボーイスカウトについては、一度表彰されると、何年かは表彰しないという項目に該当するので推薦していない。

◇委員

ボーイスカウトやガールスカウト以外にも、いろいろな団体が表彰の対象になると思うが、東浦町としては推薦していないのか。子ども会やNPOの体育協会の表彰もあるはずだが。

◇委員長

表彰規定はどうなっているのか。

◆事務局

今手元にないので、細かいところまでは説明できないが、毎年様々な表彰についてその都度他課にも照会している。担当が調べられる範囲で調べて推薦しているが、生涯学習課が把握できる範囲でここ数年該当者・団体が見受けられなかった。今回情報をいただいたので、推薦範囲を広げて推薦に関して調べていきたい。

◆事務局

スポーツ課の団体も表彰の対象になるということを伺ったので、次年度以降該当の

あるものは推薦していこうと思う。

◇委員

コロナ禍で、町の行事も3年間で減ってきたと感じている。また、自分の住んでいる地区は、古い建物がたくさん解体され、新しく変わってきた。新しい人もたくさん入ってきているので、今まであったいいところは継続し、改善できることは改善して行ってほしい。先ほど話題になった体操教室に娘も参加していた。以前は、娘が体操している間に親同士のコミュニケーションをとることができていた。今は参加できない子がたくさんいるという話だったが、子どもの体力も下がってきているというので、是非ともオーダーを増やして希望者は全員参加できるようにしてほしい。

◇委員

今朝、特別支援学級の子どもが、自分の作ったクッキーを地域の人に配りたいということで、交通指導員の方と区長さんに配ってきた。子どもたちは、自然に地域の方々に育てられていることを分かっていると思った。今後も、コミュニティ・スクールを通して子どもを社会全体で育てるという思いを先生方や校長会にも伝えていきたい。

◇委員

地域のコミュニティの推進を120名ほどの人をお願いしている。今は、新年度の入れ替えの時期でいろいろな人をお願いをしている。その際、コミュニケーションが生涯教育・地域の活性化・地域の住みやすさを作ると考えているので、いい大人がその後ろ姿を見せることで子どもや地域の方にいい影響を及ぼすと伝えている。

◇委員

東海北陸社会教育研究大会で講演していただいた成瀬さんのお話良かった。そこで、学生にも聞かせたいと問い合わせたら、了承していただくことができた。いいご縁をいただいたと感謝している。

◇委員

委員長や教育長の挨拶の中で、まつりや子どもを巻き込んだイベントなどの復活が社会の絆づくりに必要であるということであった。生涯学習課やスポーツ課の講座や教室が減っていない、需要があるということで安心した。しかし、社会の絆という点では、もっと細かいコミュニティというか心がもっているつながりがたくさんあって、それが止まっているのではないかと思っている。いろいろな町の行事を復活させて、参加者を増やして行ってほしい。

◇委員長

貴重なご意見をいただいた。また、みなさんの日ごろのお考えも知ることができた。他に質問意見がないことを確認し、議事の終了を宣告。

◆事務局

次回の委員会について連絡。次回は、5月に予定。日時は後日連絡。

備考

なし